



# とうきょう総文2022 通信 第38号②③

「とうきょう総文 2022 通信」第38号では、前号に引き続き、3面構成で東京大会の開催の様子を紹介します。2面と3面では、各部門大会の様子や東京大会のオンデマンド映像配信についての情報をお知らせします。

## 全国の高校生が集い、活動の成果を発表 運営面でも生徒が大活躍！

### 演劇部門



7月31日から8月2日の3日間、なかのZEROにて行われました。3年ぶりの有観客開催となり、全国から推薦された12校の心に残る上演を発表することができました。生徒交流会や講習会も大いに盛り上がりを見せ、素晴らしい大会となりました。

### 合唱部門



8月4日、約1800人の歌声が東京芸術劇場に響き渡りました。前日には生徒交流会が盛大に行われ、合唱講習会では東京大会委嘱作品の作曲者と指揮者の講師の方から御指導をいただきました。運営に携わってくださった方々、参加団体の皆様に厚く御礼申し上げます。

### 美術・工芸部門



東京都美術館において、特別支援学校部門と合同で403点の作品を展示し、約1万人の方々に御覧いただきました。

生徒委員発案の江戸木目込人形の制作体験交流、都道府県のぼり旗作成プロジェクトなど、多彩なプログラムを実施し、成功を収めることができました。

### 写真部門



東京都美術館において、特別支援学校部門と合同で309点の作品を展示しました。12コースで実施した撮影会も、全て充実した内容となり、参加生徒からは、「楽しかった」、「勉強になった」等の感想が聞かれました。大会開催に関わった全ての方々に感謝を申し上げます。

## 放送部門

アナウンス、朗読、オーディオメッセージ、ビデオメッセージの4部門で郷土の話題を競い合いました。生徒交流会では、ゆりーとが東京音頭を踊る場面もありました。最後は、全国の皆さんの笑顔と生徒運営スタッフの達成感に包まれ、まさに「希望の光」が集った大会になりました。



## 弁論部門

8月1日から8月3日の3日間で開催しました。各都道府県から選ばれた代表70人が自分の主張を7分間にまとめ、熱弁が繰り広げられました。運営生徒を中心に大会を成功させることができました。

7月31日、8月1日の2日間、江戸川区総合文化センター大ホールにて全47団体の公演を無事終了することができました。感染症が流行した社会状況の影響を全く感じさせないハイレベルの演奏に心打たれた2日間となりました。大会運営に御協力いただいた全ての方々に感謝申し上げます。

## 日本音楽部門



## 小倉百人一首かるた部門

47都道府県の代表チームが参加し、白熱した試合が展開されました。最後の1枚まで勝敗が分からない緊張感の中、読手の3人も立派に努めました。大会の様子を映像で配信する「ライブ配信」を実施し、かるたの楽しさを発信できた素晴らしい大会となりました。

男女別個人戦と男女別団体戦の4種目、参加人数430人を超える大会でした。東京都代表の結果は、男子個人戦で優勝するなど上位の成績を収めました。運営役員の皆様のお力添えで盛況のうちに大会を開催することができました。

## 将棋部門



総合開会式、パレードのオンデマンド映像配信中！  
部門大会の先行オンデマンド映像配信中！  
10月から部門大会オンデマンド映像配信予定！  
<https://tokyo-soubun2022.ed.jp/>

